

## あれから、 どんな活動をしてきましたか？

東日本大震災後、市内の女性団体などがさまざまな支援活動を行ってきました。これらの団体による活動報告会をきっかけにできた新しいネットワークが、「3.11トークカフェ」です。第4回目の今回は、2つの団体の通常の活動、被災者

支援活動報告と、男の料理サークルの活動が紹介されました。また、市内の男女共同参画推進団体などの紹介と各団体が自由に交流できる「おしゃべり参画(トークタイム)」が行われました。

### 被災者支援活動報告



[NPO法人地域福祉ネットワークいわき  
常磐・遠野地域包括支援センター管理者]

野口 富士子 (のぐち ふじこ) さん

#### 福祉避難所の開設・運営

3.11の後、ライフラインが寸断され、水・食料の確保が困難となり、介護サービス事業所も休業となつて、支援者のいない要介護者は、孤立するなど、生活が困難な状況が浮き彫りになり、多くの相談が寄せられました。そこで、内郷・好間・三和地区保健福祉センターと共に、臨時福祉避難所を開設・運営し、介護施設などへの入所につなげました。現在はこの経験をもとに、地域住民同士が支え合う「いわき市あんしん見守りネットワーク活動事業」に取り組んでいます。



[いわき市地域婦人会連絡協議会副会長]

木村 幸子 (きむら さちこ) さん

#### 婦人会の交流活動

3.11の後、避難所などでの炊き出しや支援物資の配布、仮設住宅での行事や交流会の手伝いなどを行いました。また、いわき市婦人は全員が日赤奉仕団員でもあることから、震災後に特に増加した子育て支援や花植えなどの奉仕活動に積極的に取り組んできました。そして、全国・県婦人団体連合会と共に被災地の視察と交流会を行い、愛知県地域婦人団体連絡協議会との交流会も実施しました。茨城県地域女性会には交流会やコンサートに招待されました。



[男の料理サークル「菜根の会」会長]

田上 将夫 (たがみ まさお) さん

#### 男子厨房に入るべし

公民館での市民講座「男のやさしい料理教室」に参加していたメンバーが、有志でサークルを結成しました。高齢化社会のなかで、高齢男性が料理をすると、脳の活性化につながり、生活に潤いを与えて、夫婦円満の秘訣にもなります。また、私も料理をするようになり、妻の料理を褒めることが多くなりました。これからは、「男子厨房に入るべからず」ではなく、「男子厨房に入るべし」を実践していきたいです。それが男女共同参画の身近な取り組みだと思います。



平第四小学校PTAと青少年育成市民会議平地区推進協議会平窪支部が主催した教育講演会に合わせて、男女共同参画基礎講座が行われました。家庭相談員の伊藤裕美さんが「子どもの思い・親の想い」と題して、家庭相談員の役割や事例を交えながら講演をしました。講演後、参加した5・6年生と保護者が、「うれしかったことやつらかったことは誰に話す？」についてグループ討議と発表を行い、男女共同参画についての基礎理解を深めました。